とよおか 農委だより

No.58
2024.8

豊岡うまいもんかるた

但馬の農産物を紹介する食育かるた。
農業委員会が市内の保育園、幼稚園等に配布して
食育活動を行っています。
子どもたちに遊びながら食の大切さを伝えています。

●頑張ってます！農地利用最適化推進活動 …… 2P
●きばっとんなる人らぁ …… 3P
●地域計画の取り組み …… 4P
●農業委員・農地利用最適化推進委員紹介 …… 5P
●伝統農産物・特産農産物等マップ …… 6・7P

頑張ってます！農地利用最適化推進活動　No.18

三方地区（日高地域）

三方地区は、日高町の南西部に位置し、16行政区の９００世帯余りで構成されています。すでに２集落は限界集落（人口の50％以上が65歳以上の集落）となっております。２０２１年度の人口２４００余人は、過去10年間で５００人減少したことになります。農地面積は、２５５ヘクタールですが年々遊休農地が増加しております。

このような状況の中、昨年10月、山本洋平さん（出石町上野）が、「繁殖和牛経営の新規就農をするため、牧草地用の農地を借りたい。」と実父の谷口秀則さん（羽尻）と一緒に来られ相談を受けました。

今回の相談に対応するため限界集落の羽尻区と隣接する殿区の区長、農会長で遊休農地対策会議を立ち上げて取り組みをした経過を報告します。

はじめに、２集落の区長、農会長と相談し、相談者の山本さんと一緒に現地調査を行いました。次に集落内の未作付けの農地の借上げ予定地をリストアップして、農地所有者に面談し、農地の貸し出しについて内諾を得ました。これに基づき、ひょうご農林機構との調整により、６・１ヘクタールの利用権設定手続きを今年３月に終えました。

今回の農地調整の結果、集落内の遊休農地がほぼ解消されました。

今後も農地利用最適化推進委員として、農地荒廃を防ぐお手伝いができればと思います。

（三方地区推進委員　中嶋貴太郎）

中嶋推進委員

鳥尾農業委員

準備が整った牧草栽培地

トラクターでの草刈り作業

小坂地区（出石地域）

昨年度より農地利用最適化推進委員となり、遊休農地の確認などの農地パトロール活動を行っています。私が担当しています小坂地区の遊休農地は現在のところ比較的少ないように思います。

小坂地区は、出石町の北部に位置し、13区の行政区があります。農地は約３３０ヘクタールあり、出石川を挟んで南北に広がる平坦地で主に水稲栽培が行われています。出石川の南側においては、鳥居区から片間区までの山裾に獣害防護柵が設置され、被害が減少しています。

昨年度より、地域農業を継続するために10年後の将来像を見据えた「地域計画」の取り組みがスタートしました。これは従来の「人・農地プラン」から「地域計画」に変更されたものです。

これから各集落等で計画策定を進めていただきますが、私たち委員も微力ながら協力させていただきます。

今後、農業者の高齢化と人口減少がさらに進み、農業の後継者問題はますます深刻化するでしょう。地域の農道、用排水路の維持管理作業の安全性の確保や作業の効率化を図るためにも、老朽化した用排水路の更新や排水路のパイプ化は必要と考えます。

作業しやすい農地環境を作ることは、遊休農地の発生を防ぐ方法のひとつであると思います。そのためには、地主の理解が不可欠です。

農地利用最適化推進委員としての活動は２年目に入り、農業者、地域の皆さんとともに、地域農業・農地を守っていけるよう努力しますので、ご協力をお願いします。

（小坂地区推進委員　米本博文）

米本推進委員

川﨑農業委員

小坂地区の農地

きばっとんなる人らぁ㊸

このコーナーでは、
地域で頑張るみなさんを紹介します。

「リレー栽培によるハウス野菜」

西沢　信弥さん（八社宮）

地元の八社宮地区で約10年前から農業に従事されている西沢信弥（32才）さん。

幼い頃から父親の農業に打ち込む姿に触れて育ち、自然と農業の道へ進まれました。

農業形態はビニールハウス46棟による野菜栽培と1.6haの水稲栽培です。

ハウス栽培の主な品目は非結球レタス（サニー、リーフ、フリル）、トマト、イチゴ、キュウリ、ホウレンソウ、キクナ、ハクサイ、ダイコン、スィートコーンなど多種にわたります。

父（西沢泰裕）さんの指導のもと、母、弟さんも加わり家族で農業経営に取り組んでおられます。

但馬地方のハウス栽培は積雪対策が課題です。毎年のビニールの張り替えは重労働ですが、最適な栽培環境を保つためには欠かせない対策だそうです。

また、但馬地域の農業者同士で連携して、ローテーションで野菜栽培を行い、年間を通じて安定供給できる「リレー栽培」の仕組みも確立されています。この時期の主力作物は非結球レタスです。

近年ではドローンを導入して水稲の薬剤散布をスタートされています。自ら操縦して弟さんとの協力体制により、年々規模も拡大されスマート農業の導入にも熱心です。

暖かい家族に囲まれ、若い感性と意欲に満ち地域農業を支えていく頼もしい農業者です。

今後の活躍がますます期待されます。

（農業委員　大谷　均）

リレー栽培で出荷される
レタス
（ひょうご安心ブランド）

「安全・安心の野菜づくり」

松居　信悟さん（出石町口小野）

松居信悟（36才）さんは愛知県出身で、農業とは無縁の仕事をされていました。

友人のところに行ったときに無農薬での野菜づくりをしておられるのを見て、熟練者しかできないと思っていた栽培が若い人でもできると気づき、無農薬栽培に興味を持たれました。令和4年に出石町で有機農業をしておられる中務喜紹さんを紹介してもらい、その年に家族で豊岡市に移住され、豊岡市農業スクールに入校されました。

出石町の認定農業者である中務喜紹さんと中嶋敏博さんのところで1年ずつ研修され、今年4月より豊岡市認定新規就農者となられました。

口小野地区に1haの農地を借り、夏はピーマン（1000本）を中心に有機のキュウリ、ナス、トマト、冬は有機のニンジン、カブ栽培に取り組まれます。「経営開始から3年間は慣行及び減農薬栽培、たじまピーマン栽培で経験を積み、5年後には有機栽培での農業経営を目指す」と話しておられました。

国が農薬の危険性をうたっていないことに違和感を持ち、自分で安全・安心な農産物を提供できる農家になりたいそうです。

豊岡は海や山の自然が豊かで趣味のロードバイクやファッションを楽しみながら農業を頑張りたいと話されていました。

（農業委員　仲川　弘之）

みんなで守ろう！　地域の農地

「地域計画」の取り組み

今後、高齢化や人口減少の本格化により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが心配されています。このような地域の課題を解決するため、農業経営基盤強化促進法が改正され、市町村において令和７年３月末までに「人・農地プラン」に代わる「地域計画」を策定することが義務付けられました。

「地域計画」は、農業者や地域のみなさんの話し合いにより策定される将来の農地利用を明確化した設計図で、概ね10年後を見据え、誰がどの農地を耕作するか等を地域の話し合いによりまとめる計画です。現況地図を見ながら話し合いを進め、10年後に目指すべき農地利用の計画を反映した「目標地図」も作成します。

農地を次世代に引き継ぐため「地域計画」の策定に取り組みましょう。

「地域計画」とは

将来（概ね10年後）の農地利用の設計図です。
地域の話し合いで作成し、皆で共有していきます。

地域計画のメリット

・10年後「誰が耕作するのか」の見通しがつく！
・地域農業の進むべき方向性が見つかる！
・地域の協力意識が高まる！
・集約されることで農地の魅力が上がる！
・国や県の支援制度が受けやすくなる！

地域計画の策定地域

集落等の単位で地域計画を策定します。
計画の策定期限は令和７年３月末まで。

参考　農林水産省HP

「地域計画」の推進

農業委員会では農地を将来にも農地として残す為に、農地利用の最適化に取り組んでいます。昨年度「地域計画」の策定が法制化されました。実行に向け市農林水産課と共に活動しています。今年6月には市内9会場で各地区の代表者を対象に説明会を行いました。制度についてご不明なことがありましたら、お近くの農業委員・推進委員にお尋ねください。私たちは、地域の相談役です。

豊岡市農業委員会
会長　村田憲夫

さあ、地域で話し合いをはじめましょう

農地利用最適化推進委員・農業委員の担当地区一覧

（任期：2026年４月20日まで）

地域名	担当地区名	農地利用最適化推進委員		農業委員	
		氏名	住所	氏名	住所
豊岡地域	八条・豊岡地区	上倉　貞実	佐野	西沢　泰裕	八社宮
	中筋地区	池畑　一己	加陽		
	三江地区	河本　嘉一	六地蔵	霜澤　良雄	庄境
	田鶴野地区	西　登己夫	船町	村田　憲夫	野上
	五荘地区	鞍留　眞司	新堂	石原　章二	内町
	奈佐地区	谷口　正徳	目坂		
	新田地区	松岡　正人	河谷	田中　竹治	今森
	港地区	嶋　理宏	気比	高尾　利美	気比
	神美地区	吉岡　正人	三宅	平峰　英子	三宅
城崎地域	全地区	北村　幸弘	城崎町飯谷	和田　茂孔	城崎町飯谷
竹野地域	竹野南地区	橋本　忠明	竹野町東大谷	瀧下　康徳	竹野町小城
	中竹野・竹野地区	山根　秀次	竹野町羽入		
日高地域	国府地区	橋本　義明	日高町府中新	尾藤　光	日高町府市場
	八代地区	平野　薫	日高町中		
	日高地区	足立　政隆	日高町祢布	宮岡　正則	日高町浅倉
	三方地区	中嶋 貴太郎	日高町羽尻	鳥尾　勝	日高町観音寺
	清滝地区	辻野　吉昭	日高町名色	原　清美	日高町万劫
	西気地区	和藤　達也	日高町栗栖野		
出石地域	弘道・福住・寺坂地区	川見　正康	出石町上野	井谷　勝彦	出石町桐野
	菅谷・室見台地区	杉本　武己	出石町細見		
	小坂地区	米本　博文	出石町長砂	川﨑　重雄	出石町三木
	小野地区	中務　喜紹	出石町口小野	仲川　弘之	出石町上村
但東地域	資母地区	松本　雅浩	但東町口藤	早水　博子	但東町中山
	合橋地区	千原　武敏	但東町西谷	大谷　均	但東町畑
	高橋地区	桒垣　一夫	但東町大河内	桑田　均	但東町平田

【農業委員会会長：村田憲夫、会長職務代理者：高尾　利美、井谷　勝彦】

問合せ先

豊岡市農業委員会事務局（市役所本庁舎２階・窓口７番）
電話：0796(21)9021　ＦＡＸ：0796(24)8114
E-mail：nougyouiinkai@city.toyooka.lg.jp

特産農産物等マップ

豊岡市伝統農産物・特産農産物等の掘り起こしについて

豊岡市には、昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの伝統農産物や特産農産物等があります。しかし、今では自家用のみで栽培されている品種も見受けられます。また、消費の減少や後継者不足は在来品種の保全にも影響が及んでいます。

農業委員会だよりでは、毎号コーナーを設け、農産物を紹介しています。

今回は、マップで各地域の農産物を紹介します。

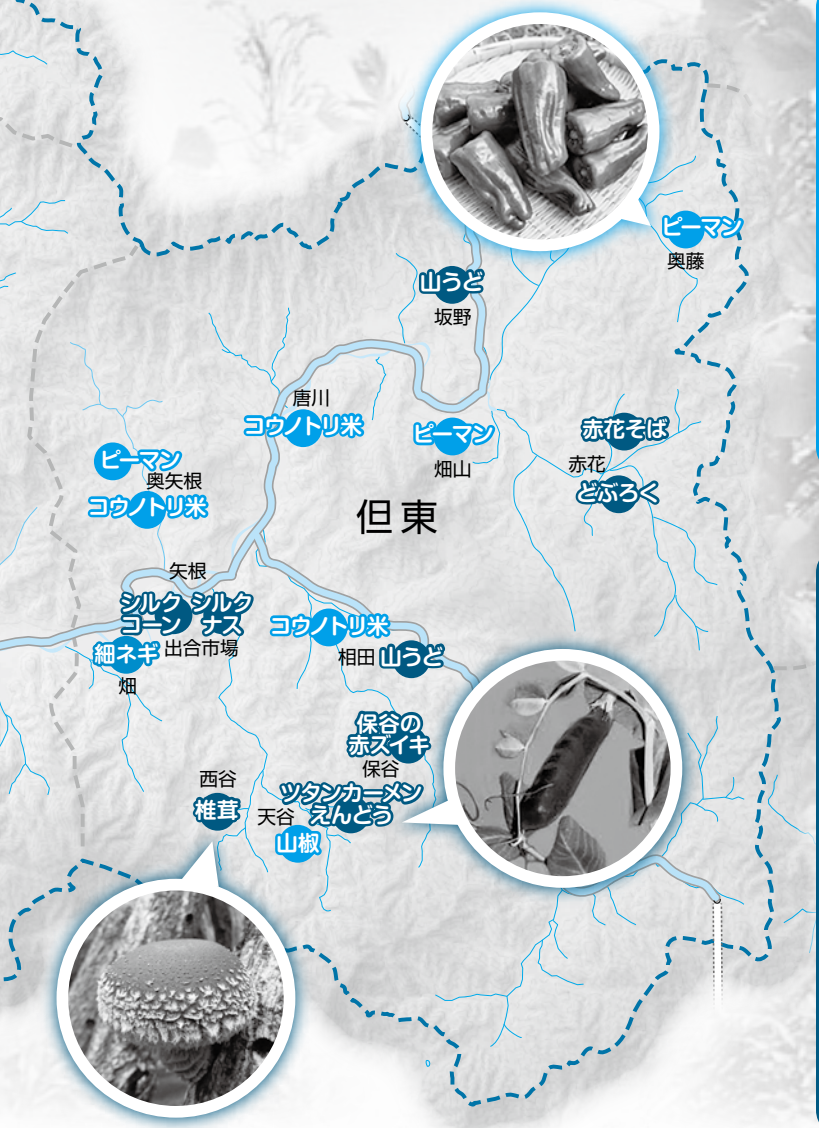
あらためて消費者の皆さんに知ってもらい、地域農業の振興に役立てたいと考えました。

なお、このマップは以前にも農業委員会だよりでご紹介しました。

◆伝統農産物とは、その地域に古くからある特異性のある農産物で、自家採種等でその形態を保存し、地名等がつき生産地を表しているもの。

◆特産農産物とは、地域にとって重要な農産物であって、ある程度まとまった面積があり、経済的に成り立つよう改良しながら生産されているもの。

として整理しました。



広域

コウノトリ育むお米・ピーマン・豊岡ぶどう・山椒

コウノトリ米

豊岡ぶどう

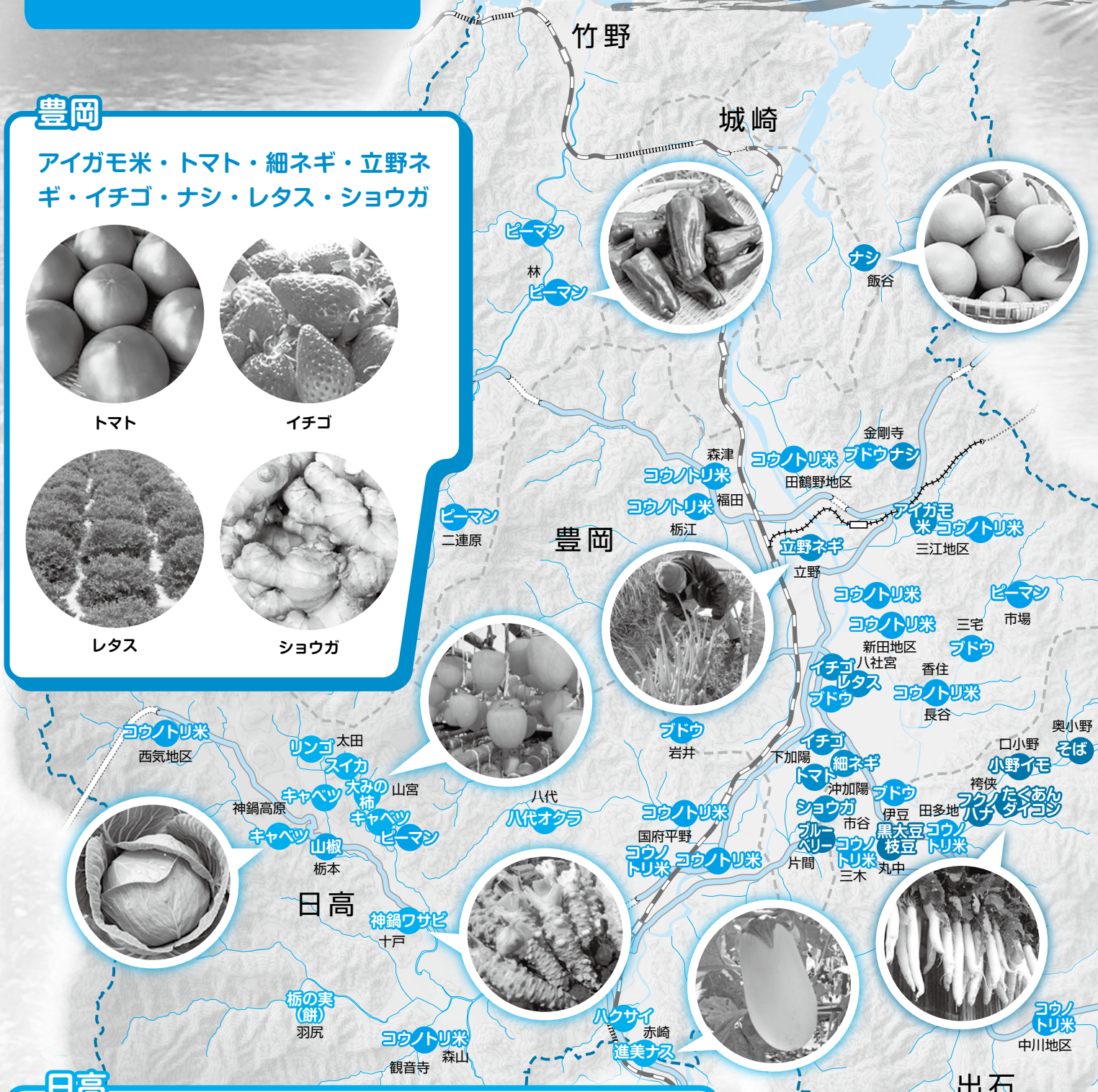
但東

シルクコーン・シルクナス・椎茸・山うど・ツタンカーメンえんどう・赤花そば・保谷の赤ズイキ・バラジャム・（どぶろく）

山うど

保谷の赤ズイキ

豊岡市 伝統農産物・



豊岡

アイガモ米・トマト・細ネギ・立野ネギ・イチゴ・ナシ・レタス・ショウガ

トマト

イチゴ

レタス

ショウガ

日高

栃の実(餅)・大美濃(みの)柿(干し柿)・リンゴ・神鍋ワサビ・神鍋高原キャベツ・神鍋スイカ・ハクサイ・八代オクラ・進美ナス

八代オクラ

神鍋スイカ

出石

ブルーベリー・フクノハナ・小野イモ・たくあんダイコン・黒大豆枝豆・そば

発行日／令和6年(2024)8月1日(年間3回発行)
通巻58号

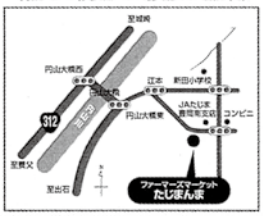
表紙について 「豊岡うまいもんかるた」

子どもたちに食と農業の大切さを伝えたい、そんな思いから「豊岡うまいもんかるた」は生まれました。但馬地域にはコウノトリ育むお米をはじめ、有機野菜、伝統野菜、果樹、海産物等の特産物が豊富にあり、それらを子どもたちに知ってもらう機会づくりを行っています。46枚のかるたにより様々な農作物を取り上げています。

かるたの読み札で農作物の紹介をして、取り札にはカラフルな農作物のイラストを入れて子ども達に伝えます。子どもたちはかるた遊びを通じて、豊岡の食材を知り、興味を持ってくれています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動ができない時期もありましたが、一昨年から徐々に動き始め、市内の保育園等に農業委員会の委員が出向き、かるた遊びを体験してもらっています。かるたを始めると子供たちは夢中でかるたをとって「この野菜知ってるよ」「食べたことある、おいしいよ」など楽しい笑顔と話し声がはじけます。かるたは園に寄贈して、園の遊びの一つとして年間を通じて楽しんでいただいています。

農業委員会では、今後も食育活動にも取り組んでいきます。子どもたちの農業への関心が高まることを願います。

（農業委員　石原　章二）

ファーマーズ マーケット
たじまんま
豊岡市八社宮490 TEL0796-22-0300
www.ja-tajima.or.jp/tajimanma
定休日：火曜日
(但し、祝日の場合は営業)


JAたじま

編集後記

各地区にて本年度中に「地域計画」の策定をしなければなりません。しかし、加速はしているものの現在順調に進んでいるとは言い難い状況です。まずは地域の皆様で将来の姿を話し合ってください。それが第一歩だと思います。区長さんや農会長さんには中心になって頂きご苦労をお掛けしますが、我々委員も精一杯お手伝い致しますのでお気軽に声掛けをお願いします。

さて、農業は今大変な逆風の中にいると思います。資材等の高騰、異常気象による生産物の品質・収量低下と価格下落が続いています。そんな中でも今回、本誌でご紹介した方たちを始め多くの生産者は踏ん張っています。

明るい未来を信じて知恵を出し合い、何とか踏ん張っていきたいものです。

最後になりましたが本誌の発行にあたりご協力頂いた皆様へ感謝を申し上げます。

（編集委員長　石原　章二）

石原委員

村田会長

宮岡委員

仲川委員

川﨑委員

大谷委員

中嶋委員

米本委員

上倉委員

農委だより第58号は私たちが担当しました。
農業者の皆様に情報をお届けします。

編集発行／豊岡市農業委員会
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号　豊岡市役所本庁舎2階
☎0796-21-9021 FAX0796-24-8114

VEGETABLE OIL INK 環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。

本紙掲載の写真・イメージフォト・イラストは許諾を得て掲載しており、無断転載を禁じます。